



## トランプ政権の環境エネルギー政策 2017（1）

### 自動車と燃費規制

2017/03/03

トランプ大統領と環境政策

松本 真由美

国際環境経済研究所理事、東京大学客員准教授



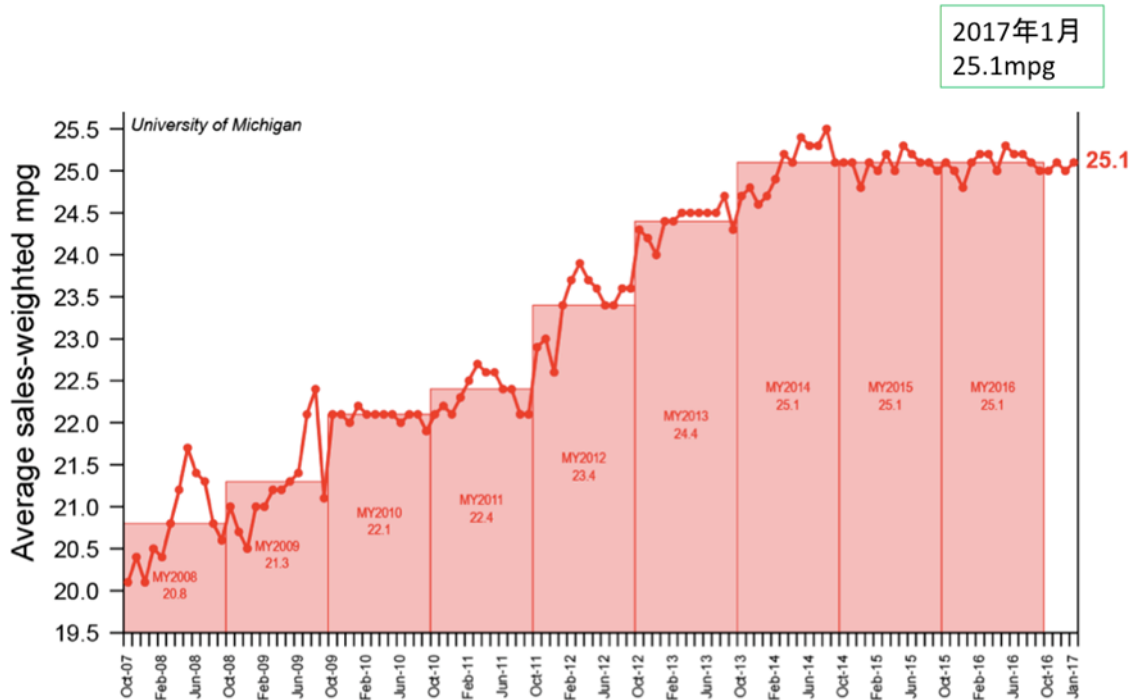
ワシントン D.C. で今年 2 月 6 日から一週間にわたり、米商工会議所や産業界、シンクタンクなどに、トランプ政権の環境・エネルギー政策の行方についてヒアリング調査を行った。自動車業界でのヒアリングをもとに、初回は「自動車と燃費規制」について報告する。

米国で販売される自動車には、日本とは異なる自動車の燃費規制が適用されている。「CAFE: Corporate Average Fuel Economy（企業平均燃費）」と呼ばれる燃費基準は、自動車メーカーが販売した車全体で平均燃費を算出し、それに規制をかけるというものだ。ある特定の車種で燃費基準を達成できなくても、その他の車種の燃費を向上させることでその分をカバーすることができる。しかし、その年の CAFE 基準を達成できなければ、自動車メーカーは罰金等が課せられる。

1978 年の新車で初めて CAFE 基準がかけられ、1985 年まで段階的に引き上げられた結果、大幅な燃費の向上につながった。その後、しばらく基準値はほとんど引き上げられなかったが、気候変動（地球温暖化）問題や原油価格の高騰などを背景に、バラク・オバマ前政権は 2009 年 5 月、2012 年から 2016 年まで毎年 5% ずつ段階的に規制を強化する CAFE 基準を設けた。オバマ前大統領は電気自動車（EV）の発展に強い関心を寄せ、政策的に支援してきた。

オバマ前政権下の CAFE 基準により、米国内で販売を行うすべての自動車メーカーは、燃費向上のための技術開発コストを増やし、燃費改善の技術開発と導入を迅速なスピードで進めてきた。しかし、売れ筋の車種がライトトラック（ピックアップトラック/SUV/ミニバン）と呼ばれる大型のガソリン車である米国の自動車メーカーにとって、CAFE 基準は経営上の大きな負担になっている。

米環境保護庁（Environmental Protection Agency）は、オバマ政権終わり間際の今年 1 月 13 日、2022 年～2025 年型の将来の新車の平均燃費基準を、2025 年までに、現在に比べて 10 マイル/ガロン引き上げて、「36 マイル/ガロン」に最終決定したことを発表した。「**図 1**」は 2007 年 7 月から 2017 年 1 月までの米国で販売された高燃費車の 1 ガロン当たり平均走行距離（マイル）の推移である。トランプ政権に変わる前の、EPA の“置き土産”とも言える非常に厳しい規制について、米自動車メーカーを中心に、トランプ政権が引き下げてくれることを切望していることが米メディアに伝えられている。



米国で販売された高燃費車の1ガロンあたり平均走行距離(マイル)の推移  
ミシガン大学交通研究所

図 1

大統領に就任早々、「規制緩和」に関する大統領令を公表しているトランプだが、果たしてこの「新 CAFE 基準」を引き下げることができるのだろうか。自動車業界のヒアリングでは聞かれた意見は、「燃費基準の引き下げは簡単ではない」というものだ。しかも、「引き下げには何年もかかるのではないか」という意見さえ聞かれた。

なぜならば、端的に言うと、CAFE 基準は 1978 年に設定されて以降、州政府の規制とも複雑に絡み合い、規制緩和が容易ではないからだ。例えば、米国の中でも環境規制に厳しいカリフォルニア州では、カリフォルニア大気資源局 (CARB) が 1990 年以降、排ガス規制として ZEV (Zero Emission Vehicle) 法を制定し、自動車メーカーに対して販売台数の一定割合を、走行時に排ガスを出さない ZEV にすることを義務付ける「ZEV 規制」を導入している。ZEV はライトトラックに比べると燃費の点でも優れている。

現在、CARB は、カリフォルニア州内で販売する新車の 14% を ZEV 車にすることを義務づけており、2018 年から 2015 年にその割合を 15.4% に引き上げる予定である。実際には、ハイブリッド車 (HV) や天然ガスなども ZEV に準じて考慮されているが、規制値をクリアできなかった場合、自動車メーカーは CARB に罰金の支払いが、他社から環境クレジットを購入しなくてはならない。

仮に連邦政府が CAFE 基準を引き下げたとしても、カリフォルニア州、それに追随するニューヨーク州やニュージャージー州などの 7 州は、自動車への規制は変えないだろうという意見も多く聞かれた。つまり、米国内で販売する自動車の燃費向上のための開発の手を緩めることは当面できそうもないということだ。